

Web コミュニケーションツールとしてのイントラブログの構築

— 「誰に見せる」「誰に見せない」を選べるブログ —

1. 背景

ブログはWeb上での一般的なコミュニケーションのための個人ツールとして成り立っている。その用途は様々で、「自分のための日記」、「ニュースクリップ」、「企業の宣伝」、「ホームページ」などがあり、これら以外にも利用形態が日に日に増えている。しかしながら、閲覧の際の認証については十分に整備されていないという問題点が存在する。多くのブログシステムでは、一つのブログにおいてエントリー単位で閲覧の制限を加えることができず、例えば、一つのブログの中で「自分だけしか見られない日記(エントリー)」と「一部の友人達に見せる日記(エントリー)」とを混在させることは現時点で不可能である。

一方、企業等の組織で非公開型ブログ(イントラブログ)を利用する状況を想定すると、組織内で各部署によってはその部署のみの公開を必要とする機密情報も含まれ、エントリー単位で閲覧制限をかける必要がある。しかし、個人でブログを利用する場合と同様に、既存のシステムではエントリー単位の閲覧の制限に対応しておらず、全部署にまたがって公開しても構わないエントリーしか公開できない。このような背景から、イントラブログを組織に適用する場合、各記事における閲覧制限を設けることが必要であると考えられる。

2. 目的

本プロジェクトではイントラブログを対象とし、エントリー単位で閲覧制限を付加できるブログシステムの構築を行う。対象をイントラブログとした理由は、閲覧指定する要求が想定されるのは特に組織を対象とした内部公開型のブログが考えられるためである。本システムの実現により、エントリーを投稿するユーザはエントリーを公開する相手を選択することができ、イントラブログの利用用途が更に拡大するものとして期待できる。また、さらに利用者を特定できるという認証の利点に着目し、例えば自分のブログのアクセス数を利用者に提示するといった機能など、利用者にとって有益な情報を提示する機能を付加する。このような今まで得られなかった情報提示による、ユーザへの投稿促進、つまりはブログによるコミュニケーションの活性化を本プロジェクトの目的とする。なお、今回は所属研究室を実施対象としている。

3. 開発の内容

開発システムの概念図を図1に示す。図1に示すように、開発システムは大きく3つのシステムで構成される。ブログのエントリー情報を収集しデータベースへ格納するRSS クローラー(①)、続いて格納したエントリー情報を取り出し、ブログのエントリーを表示するインタフェース(②)、3つ目はエントリー情報が蓄積されているデー

データベースにおけるエントリーの解析処理(③)である。

インタフェースに認証機能をつけることによってシステムはユーザを判断でき、これによって各ユーザに応じて、そのユーザが閲覧可能な記事のみを表示することができる。

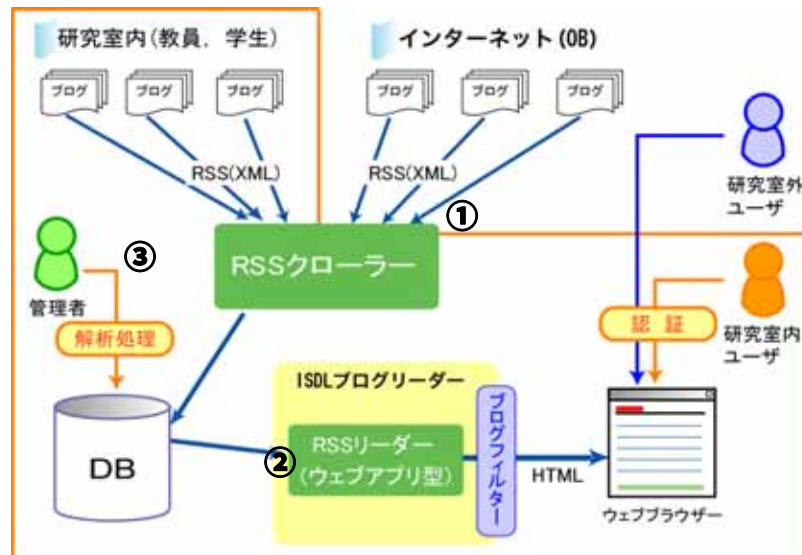


図1. 開発システム概念図

3. 1 閲覧者指定方法

ブログの記事に対し、閲覧者を指定する様子を図2に示す。

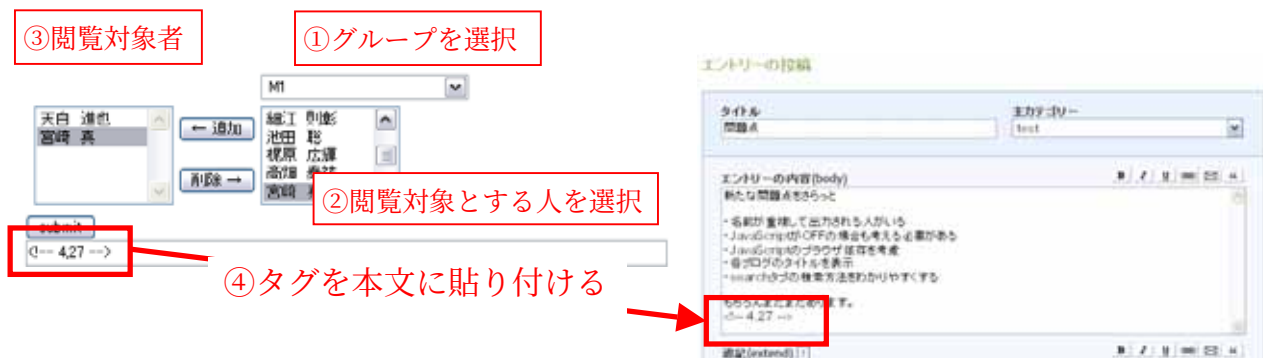


図2. 閲覧対象者の指定方法

(左:タグ作成インターフェース, 右:ブログのエントリー投稿画面)

図2において、まず①でユーザはまず閲覧対象にしたい人のグループを選択し、そのグループの人が②に表示される。その中から詳細にどの人を閲覧対象とするか選択し、「追加」ボタンを押すことにより、③の閲覧対象者の欄に追加されていく。この作業が終わり、最後に「submit」ボタンを押すと、タグが得られ、これをブログ本文に貼り付ける(④)。この作業により、記事に閲覧対象者の意味付けをしたことになる。

3. 2 システムのインタフェース

図3に示すインタフェースは、表示するエントリーの条件を指定する画面と、指定されたエントリーを表示する画面、この2つの画面により構成されている。なお、エントリー表示部分には、エントリーを効率良く閲覧できるよう、Ajax と呼ばれる技術を用いページ遷移の少なくしている。エントリーを読むためには、まず①でカレンダーの日付をクリックし、これにより②に投稿されたエントリーのタイトル一覧が表示され、閲覧したいタイトルをクリックすることでそのタイトルに該当するエントリーを閲覧することができる(③)。

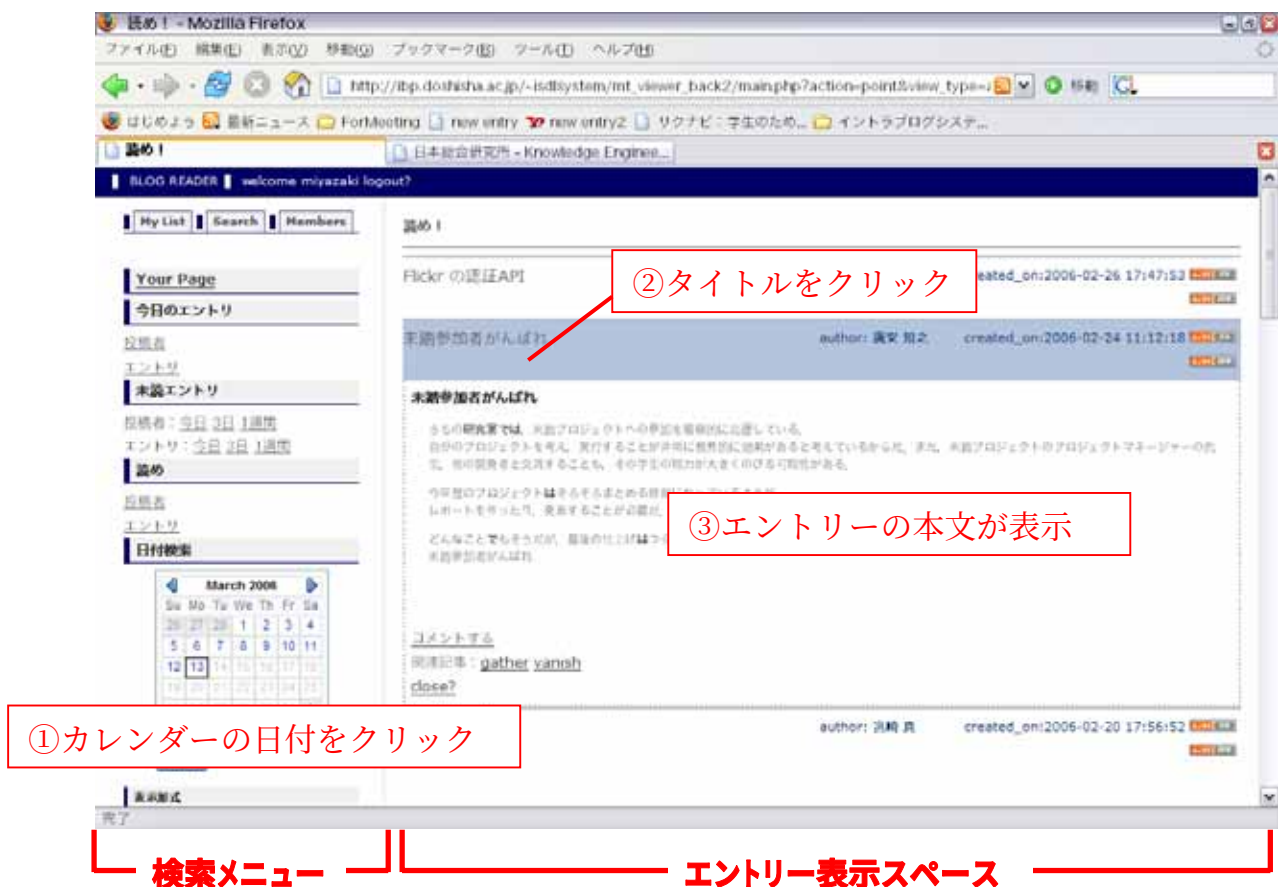


図3. ブログを閲覧するインタフェース

4. 従来の技術（または機能）との相違

本システムでは、利用者は既存のブログの利用形態を変えずに、本システムのイントラブログに参加できるという特徴を持つ。従来システムでは、新たなイントラブログに参加するためには、ユーザは今まで利用していたブログとは別に、新たに用意されるブログを用いる必要があった。つまりエントリーを投稿するブログのプラットフォームを2つ持つことが前提となっていた。これに対し、本システムのイントラブログに参加するためには、RSS を登録するのみで良く、参加の敷居が非常に低いものといえる。図4に本システムへの登録画面を示す。

BLOG READER

登録用フォーム

名前(漢字)※	
名前(半角ローマ字)※	
パスワード※	
パスワード(確認)※	
期生(学生以外は0)※	0 ▼
トップページURL	
RSS URL※	
e-mail	
reset	confirm

必須入力項目

- ・名前(漢字)
- ・名前(半角ローマ字)
- ・パスワード
- ・期生
- ・RSS URL

図4．登録画面

5．期待される効果

従来のブログでは、1つのエントリーに対する閲覧対象を指定出来なかったが、本システムではそれが可能となり、ブログのエントリーに人へのメッセージ性(指向性)を持たせることも実現した。具体的に、実施対象とした提案者の研究室での利用例を挙げると、普段学生は研究に悩んでいることをブログに書くケースが多く、教員がそのブログを見て自分に共感してもらえることを期待している。しかしながら、従来のブログリーダでは登録人数が50以上にもなることから、教員はそのようなエントリーを読み飛ばすことが多い。これに対し、本システムでは学生がエントリーの本文に教員宛のタグを埋め込むことにより、教員が本システムにログインした際、自分宛のメッセージとしてそのエントリーを受け取り、それにほぼ必ず目を通すこととなる。

このように、学生は教員に自分の悩みを伝えることができ、また教員にとっては学生の考えを把握できることから、学生・教員の両者にとって有効に働くと考えられる。

このようなやりとりはメールと異なっており、日記形式で相手へメッセージとして伝えることができることから、従来には無い本システム特有のコミュニケーションの形と言える。

6．普及（または活用）の見通し

本システムは、導入にあたり非常に敷居が低く、イントラブログを作る目的でなくとも、個人のRSSリーダとしても十分に利用価値があると考えている。そこで、本プロジェクトでは、システム全体のパッケージと、リーダに特化したパッケージをそれぞれ外部公開する予定としている。また、実際に研究室で利用しているという利点を生かし、活用方法を外部へアピールし、特に導入の敷居の低さも兼ね備えたイントラブログツールのスタンダードとして定着することを期待する。

7．開発者名（所属）

+ 宮崎 真（同志社大学大学院工学研究科）